

Rotary



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2025～2026 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦・学び・成長・奉仕 ～地区と地域の未来を考えて～

よいことのために
手を取りあおう

Rotary

◆会長 都竹 太志 ◆幹事 井ノ下 雄志 ◆会報委員長 今井 哲也 ◆会報担当 中屋 出

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1403 回	56 名	56 名	55 名	—	98.21%
前々回 1401 回	56 名	56 名	35 名	3 名	67.86%

●点 鐘

●ロータリーソング

我らの生業

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ビジター・ゲストの紹介

●会長の時間

会長 都竹 太志

皆さん、こんにちは。

本日は、6月に開催された飛騨地区労働安全衛生大会での内容を踏まえ、「労災事故は社内のコミュニケーションによって撲滅できる」というテーマでお話します。

「労災ゼロ」はすべての企業が目指すべき理想です。私たちはこれまでに安全マニュアルの整備、設備の更新、安全教育の実施など、さまざまな対策を講じてきました。それでもなお、日本では年間10万件を超える労働災害が発生しています。では、なぜ事故はなくなるのでしょうか。その大きな要因の一つが「人の心理」、私は初めて耳にする言葉ですが、無意識の偏見、いわゆる「アンコンシャス・バイアス」と、そこから生じる「コミュニケーション不足」にあるといわれています。人と人之間にある見えない壁があるという事でした。

実際、現場で起きている事故の多くは、「伝えていれば防げた」「聞いていれば避けられた」というものです。たとえば、ベテラン作業員が機械の異常に気づきながらも「大丈夫だろう」と判断して放置した結果、重大な事故が起きたり、若手社員が安全ルールを理解しないまま作業を進め、ヒヤリとする場面が生じたりしています。ここで共通しているのは、「言わなくても分かる」「聞いたら迷惑かも」といった心理的な壁です。つまり、「沈黙」が事故の原因になっているのです。

日本の職場では「報・連・相」が大切だと言われていますが、実際には「忙しそうで声をかけづらい」



「以前注意したら嫌な顔をされた」「自分で判断した方が早い」などの理由から、声が上がらない現場も少なくありません。どれだけルールや設備を整えても、声が出せない雰囲気では、安全は守れません。安全とは、「小さな違和感でも口に出せる空気」の中から生まれるものだ、私は思います。

また、冒頭で触れたアンコンシャス・バイアスも大きな問題です。「若いからまだ任せられない」「ベテランだから大丈夫」「女性には危険な作業は無理だろう」など、こうした無意識の思い込みが、判断ミスを生み、情報の流れを遮断し、事故のリスクを高めます。過去の事故を振り返っても、「たぶん大丈夫だろう」「自分に限ってそんなことはない」といった油断や過信が原因となったケースが数多くあります。

このような心理的な壁を取り除くために、私たちにできることはたくさんあります。たとえば、現場の声をしっかり聞くこと。若手やベテラン関係なく、多様な視点を取り入れること。そして、「こんなこと言ってもいいのかな？」と迷わず声を上げられる雰囲気を作ることです。さらに、アンコンシャス・バイアスに気づくための研修なども、職場における意識改革に効果的です。

そして何より、リーダーの姿勢が職場の雰囲気を左右します。上司が常に忙しそうにしていれば、部下は声をかけづらくなりますし、せっかく報告しても途中で遮られたり否定されれば、「どうせ言っても無駄だ」と思われてしまいます。だからこそ、まずは耳を傾け、否定せず受け止め、報告があったこと自体を評価する。この姿勢が、現場の安心感と信頼関係につながります。

安全は、一人の努力では成り立ちません。声をかける人、受け取る人、その場にいる全員が、日々の対話を通じて築き上げていくものです。朝礼や終礼、ちょっとした雑談の中でも、小さな違和感を拾える場を大切にしていきたいと思います。ヒヤリ・ハット事

例の共有も、大きな事故を未然に防ぐ大切な一歩です。

私たちが本当に「安全文化」を根付かせるためには、見える対策だけでなく、「見えない心理」にもしっかり目を向けなければなりません。事故は、人が起こすもの。だからこそ、「人の無意識」に気づき、そして「対話」を通して変えていくことが、最も本質的な安全対策なのです。どんなに経験豊富な人でも、ミスや見落としは起こります。その為にも個々には指先呼称、そして、それを補い合えるのが、社内のコミュニケーションです。

「声をかける・伝える・聴く・確認する」

この基本が、当たり前前にできる風土こそ、最強の安全対策です。日常の積み重ねが、事故の芽を早めに摘み取ります。そんな職場づくりを進めていきましょう。

労災ゼロは、ルールや装置だけでは実現できません。人と人の対話の力で、ゼロを目指しましょう。本日もご安全に。ありがとうございました。

●幹事報告 幹事 井ノ下 雄志

◎国際ロータリー第 2630 地区
ガバナー事務所より

・第 1 回クラブサポートミーティングのご案内

10 月 14 日 (火)・10 月 17 日 (金)

両日とも 20:00~21:00

・秋の「第 23 回ロータリー全国囲碁大会」のご案内

日時：11 月 8 日 (土) 10:00~

会場：東京・市ヶ谷の日本棋院本院 1 階対局室

<会報>

・高山 R C



●会員 3 分間スピーチ

杉本 哲也



●創立 35 周年実行委員会

委員長 周 信夫

高山中央クラブでは青少年育成のため、10 年以上前からキャリア教育の一環として市内中学校生徒を対象に、クラブメンバーが生徒達に将来の自分に夢を持てるよう、人生の生き方や仕事の大切さを伝える「出前講座」を毎年行ってきました。



この「出前講座」を通じて、生徒達が自分の生き方を見つけ、都会に出てもまたいつの日か高山に戻り地元のため活性ある街づくりができるよう成長する事を期待しています。

今回、「出前講座」を開催して一体生徒はどのように感じているのだろうか、生の声が聴きたくなりました。そこで令和 7 年 11 月 29 日 (土) に創立 35 周年記念事業として、「出前講座」を通じて感じた事をスピーチコンテストとして発表する機会を設営します。このプロジェクトや出前講座を通じて生徒達が自分の生き方を考え将来は地元に戻ってくる事が高山のような今後人口が減少し過疎化する地域における少子化に歯止めがかかる事を期待しています。

クラブメンバーの皆様には、スピーチコンテスト当日に運営サポートをお願いしたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

●ガバナー補佐訪問 濃飛グループガバナー補佐

岩本 正樹 様

みなさんこんにちは、濃飛グループガバナー補佐の岩本です。まずは 100%例会達成おめでとうございます。今日は今年度第 2 回目のクラブ訪問という事でここに立たせて頂いております。こうして濃飛グループの 6 クラブを順番に訪問させて頂いておりますが、クラブクラブそれぞれに特徴がありまして、私の方が色々気付く点が多くて勉強させて頂いているところがございますが、そんな中で気が付いた点を少し話させて頂きます。まず思った点はやはり高山中央ロータリークラブの会員数の多さです。これはもううちのクラブの会員維持増強が非常に上手くいっている事に他なりません。そして様々な奉仕活動にも取り組み、地域貢献という意味でも第 2630 地区の中でも素晴らしい実績のあるクラブであることは間違いないと思います。しかし、他のクラブは会員数が少なく限られた予算の中でも、上手に奉仕活動を実践しております。例えば下呂ロータリークラブは青少年奉仕に的を絞って活動



を行っております。インターアクトのスポンサークラブと青少年交換事業に特化して非常に精力的に活動しております。又、高山ロータリークラブさんも斐太高校のインターアクトに誠心誠意取り組んでおられます。他のクラブを訪問して高山中央クラブに対して私が感じる事は、資金が豊富にあるせいか、あれもこれも手を出し八方美人になっていて、成果に対する充実感や達成感が少し乏しいのではないかということが気になりました。ここにきて物価上昇に伴いこのクラブも会費値上げが議論されておりますが、うちのクラブも例外ではないと思いますので、この機会に高山中央クラブも一度事業活動を見直して取捨選択をし、高山中央クラブの核となる事業にさらに磨きを掛けて、それを内外に知らしめていく、そういう取組みが必要なのではないか、その上で皆が納得できる年会費を決めていけば良いのではないかと6クラブを訪問して感じましたので報告、提案をさせていただきます。

話を換えさせていただきますが、今日は折角皆様方の前に立たせて頂きましたので私の感じているロータリー感について少しお話をさせていただきます。我々の先輩ロータリアン達が例会について「例会は人生の道場である」でありますとか、ロータリーについて「ロータリーは友情を育み、人を育てる」ですとか、「ロータリーは親睦、学び、成長、奉仕」でありますとか述べられております。そして日本のロータリアンは昔から職業奉仕という考え方を大切にしております。私はマッカさんと三枝さんに誘われてロータリーに入会して21年目になります。前にも一度スピーチさせて頂いた事がございましたが、入会した当時の私はまだ40代半ばでお金儲けが楽しくてしょうがなく、例会に出席する時間がもったいなくて、入会してすぐに「こりゃ、大変な処に入ってしまったな」とすぐに後悔をしたことを覚えております。それでも何とか例会には出席しておりますと、クラブの先輩たちが何とか私をロータリーに定着させようとあの手この手で努力してくださいました。幸い私はゴルフが大好きでありましたので、昼はゴルフを一緒に楽しんで、夜はゴルフの反省会と称して酒を酌み交わしたり、またいろいろなところに旅行にも連れて行って頂きました。そうこうしているうちに少しずつですが信頼関係と言いますか、絆が深まってきました。考えてみますに、ロータリークラブの会員は原則皆さん会社の社長さんや役所のお偉いさんばかりでありまして、中には普段でありましたら到底お目にかかれない様な大社長もみえる訳であります。そんな社長さん達は私なんかの性格は簡単に見抜いて、高山中央ロータリークラブに馴染むように上手に時間をかけて私を導いて頂きました。私もそのうち先輩たちと普通に話が出来

るようになり、先輩方の考え方に触れていくうちに、尊敬出来る部分は自分なりに取入れながらロータリークラブへの理解も深まっていき、まだまだではございますが人間的にも少しずつ成長出来ているのかなと感じている処でございます。そして気が付いた時にはクラブのど真ん中で様々な活動をしている自分がおりました。今ではロータリーに導いて頂いた事や、先輩たちに色々な意味で鍛えられた事を本当に良かったなと感謝している今日この頃でございます。まさに「ロータリーは友情を育み、人を育てる」「ロータリーは親睦、学び、成長、奉仕」その通りだと思います。会員維持増強は新会員を誘い入れる事は勿論重要でございますが、折角入ってくれた会員を守り育てていく事に常に心くばりをして頂ければ退会者の少ない、会員相互の信頼関係のあついで、より良いクラブになっていくと思います。特にこのクラブは若い優秀な会員が沢山おられますので、ベテランの会員さんは、私も含めてではございますが会員維持の方にもどうかご注力をお願いいただければと思います。ロータリーは会員同士が仲良くなければ、良い奉仕活動など出来ません。先ずは「親睦」であります。若い会員さんも先ずは先輩と一緒に楽しみましょう。

そしてもう一つ、ロータリーには「職業奉仕」という考え方がございます。日本のロータリアンが大変大事にしている理念でございます。我が高山中央ロータリークラブも長期戦略計画目的を「職業奉仕に徹すること」と定めております。私は測量設計コンサルタントを生業にしておりますので公共事業を通じて社会のインフラ整備に日々貢献させて頂いておりますが、中でも豪雨災害でありますとか、震災でありますとか、災害時には緊急初動対応を我々の業界は求められますので、その様な緊急対応の業務をこなしている時などは特に、うちの会社も少しは世の中の為に役に立っているな、「職業奉仕」実践しているなと実感できる時でございます。この様に「職業奉仕」を実践しているなと感じながら自分の職業に取り組んでいる時、この何とも言えない達成感と言いますか、日本のロータリアンの美德と言いますか、会社の経営者にとって「職業奉仕」というワードは本当にじっくりくる企業理念でもあるなと思うのですが、そう思うのは私だけでしょうか。ロータリーに入会してこの様な理念に出会い、しっかり向き合い理解を深めて自分の職業に生かしていく事が出来ればロータリークラブに入会した意義もあるのではないかなと思うのですが。今日は私の体験や職業を踏まえて「会員維持」と「職業奉仕」を絡めまして、私のロータリーに対する思いをお話させて頂きました。ありがとうございました。

●IM 実行委員会 委員長 下田 徳彦

IM についてご案内させていただきます。

開催まで残り2か月となりました。

IM の実行委員長を受けたときに、岩本 AG に「今回のテーマは どうしますか？」と相談したところ、「任せるで考えといてくれ」と言われました。これまで 3 回実行委員会を開催してきて、ようやくテーマが見えてきたように思います。というのは、AG の役割はガバナーと各クラブ間また会員間とのパイプ役であり、自分の思いを前面に出すのではなく、お互いの中に入って中間の立場での調整役という位置づけにあるからで、テーマについてははっきりと断言しなかったことも、そのような経緯からであると感じています。

今日の例会が、まさしく岩本 AG の思いが伝わった例会だと感じており、まず会員が「集う」ことが大切だと感じています。本日の 100%例会へと導いた都竹会長の思いを地区へとつないでいくのも AG の役割であり、現在「集う」をテーマに IM の企画を進めています。

IM 実行委員会の組織体制には 3 つの部会と、その下に 7 つの委員会があり、皆さんそれぞれ委員会に所属し、全員一人一役の役割があります。どうしても多くの参加者を募れる IM ができるかを考えたとき、為になって楽しい内容にしたいと考えています。IM は第 1 部と第 2 部の構成になっており、第 1 部では益田大輔さんの講演会を計画しており、精神科医が語る人生 100 年時代のメンタルヘルスをテーマとして、お話していただきます。人生 100 年が当たり前になってきた現在であるのに、明日の事もわからない予想がつかない時代でもある中でメンタルヘルスについての話は全世代の会員にとっても、為になる話であると思います。また第 2 部の懇親会では、太鼓、獅子舞、芸者あそびと言った飛騨らしさを演出できるアトラクションを考えており、楽しんでいただける内容になっております。

これらを実行するには、皆さんお一人お一人の力が必要であり、何とぞご協力をお願いいたします。10月26日はこのクラブとしての2回目の100%例会を目指しています。この IM に参加していただいた方が、皆さん「来てよかった」と思える IM にしたいと願っております。



●会員増強委員会

委員長 二木 公太郎

本日の例会で、高山中央クラブの新たなメンバー候補者の一覧を各テーブルにお配りしています。その中に知り合いがいましたら、それぞれのメンバーが声掛けをして是非仲間に誘ってください。

その他推薦したい人がいましたら会員増強委員長やロータリー事務局まで連絡をください。

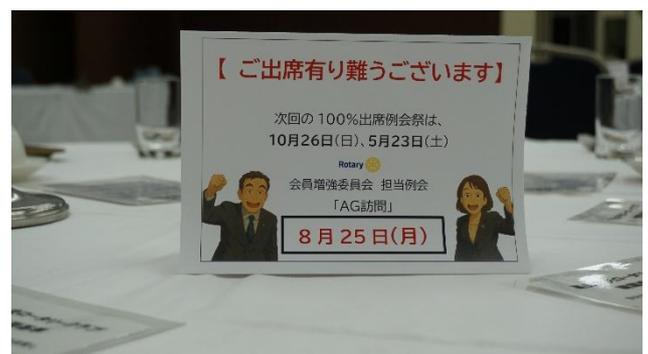


* 益田清風高校へ



下呂 RC 小池会長と共にインターアクトクラブに助成金をお渡ししました。

☆100% 出席例会 達成☆



＜ニコニコ BOX＞

本日第 2 回目のクラブ訪問です。よろしくお願い致します。

濃飛グループガバナー補佐 岩本 正樹 様

岩本ガバナー補佐、本日は訪問ありがとうございます。卓話をよろしくお願い致します。

役員理事一同

病欠の直井君以外、全員出席 100%出席例会とさせていただきます。感謝 感謝です。高山中央ロータリークラブの気概を感じました。

ありがとうございます。 **都竹 太志**

本日は例会出席頂きありがとうございます。次回は、10月26日(日)インターシティミーティング開催日です。よろしくお願い致します。

井ノ下 雄志

本日は岩本AGの来場ありがとうございます。本日は100%出席例会という事で食事のグレードアップに際し、クラブ関係者及びひだホテルスタッフさんには大変お世話になりました。ありがとうございます。 **村井 繁喜**

今週末、創立 35 周年記念旅行です。7:00 高山駅西集合出発です。よろしくお願い致します。

中田 学

阪神マジック 16、大阪万博マジック 5、皆さんでその日を楽しみましょう。 **周 信夫**

先週の例会後、小走りで市役所に向かった際、派手にダイブして左顔面を受傷しました。ハロウィン状態なのでファンデーションをぬっておりますのでよろしくお願いします。また、10/2

13:15~15:05で「出前講座」があります。現在11名の参加を頂いていますが20名が目標です。講師登録をよろしくお願い致します。

益田 大輔

今月、長男がなんとか結婚する事が出来ました。次は僕の番かな〜って願いと思いを込めてニコニコへ。 **高原 龍士**

